

地産地消の家づくり
に取り組む

大工・工務店 設計事務所

株式会社稲見建築設計事務所
有限会社岩木建設
株式会社大山建工
有限会社キーポイントホーム
建築組パックス有限会社
企業組合県木住
有限会社桜庭工務店
1952HINOKIYA一級建築士事務所
三浦住建
株式会社ミヨシプラス

株式会社 稲見建築設計事務所



2017年度第10回あおもり産木造住宅コンテスト
優秀賞受賞

ユ一ザ一訪問

工藤 翔平・工藤 沙織 様邸

DATA

青森市千富町1丁目 2017年9月竣工

■延べ床面積/37.96坪(125.49㎡)

■使用青森県産材/ヒバ(土台、建具)、スギ(床、柱、梁、一部外壁)など(使用している木材はすべて青森県産材)。

全国レベル 県産材住宅

トリプル断熱・W遮熱

工藤様邸の錆が浮いた金属の外壁材は、対候性鋼板の「コールテン鋼」だ。錆が進行すると止まって鮮やかな色に仕上がる一方、錆が保護膜となり内部まで腐食しないためメンテナンスフリーになる。2階の外壁のスギ板に塗装したウッドロングエコも同様に、一定のところまで劣化すれば止まる。——(株)稲見建築設計事務所が発信する「手間要らず」の外壁に加え、①太陽光発電のゼロエネルギーハウス(ZEH)②ヒートポンプによる放射式冷暖房③従来の「W断熱」遮熱から「トリプル断熱」「W遮熱」へと「進化」した全国レベルの「青森県産材の家」をご紹介します。



ご夫婦共通の趣味のマウンテンバイクとエレキギターが飾られた土間

——玄関土間にマウンテンバイクやエレキギターが(3台ずつ)飾られています。稲見公介氏も同じその仲間で、それが縁で新築を依頼したとか？

ご主人の話 (いやいや、と笑って手を振りながら)、これは私と妻の趣味なんです。妻とは大学のときからのバンド仲間ですし、マウンテンバイクも2人で休日に楽しんでます。稲見さんとの出会いは、テレビで見ただけの見学会のお知らせのコーナー

シャルだったんですよ。結婚して2年ほど経ったときで、建てようかと思いはじめたところに、ちょうどタイミングよく青森市内で開かれるというそのお知らせが入ったんです。夫婦で行ってみました。

奥様の話 あのとときは、稲見さんは他のお客様の対応をしていてあまりお話はできませんでしたが、盛岡から見学会の設備の業者の人と盛り上がりましたね。わが家に設置されて



淡めの色調で統一されたリビング。床のスギの無垢材の感触が柔らかく温かい

いる（リビングの壁際を指差して）金属のパネルが、今なら冷房のパネルだと分かるけど、あのときは何しろる住宅を見学したのは初めてだから、見るもの見るもの目新しく、「これなんですか？」って聞いたら、その業者の人が、懇切丁寧に説明してくれました。エアコンによる暖房や冷房は風が吹き出るのに対して、この輻射によるパネル方式は風がなく自然な暖かさや涼しさが得られるのが最大の特徴だと、実に熱心でし

たよ。機械で強制的に暖めたり冷やしたりするのではなく、暖房なら「春みたい暖かさ」という言葉が印象づけられました。

稲見氏の話 輻射式冷暖房について補足しますと、暖房は、ヒートポンプで温度を上げた不凍液をパネルに循環させる温水式のシステムです。冷房は、ヒートポンプで温度を下げた冷水をパネルに流すと表面に結露が起き、その際に温度が奪われて室温が下がるしくみ



夏冬ともに自然な心地よさが得られるパネル式の冷暖房システム



デザインセンスの高さを感じさせる黒色のタイルが張られたキッチンの腰壁

で、どちらにも不快な風が発生せず、夏冬ともに自然な心地よさが得られるところが大きな特徴です。当事務所で手がける住宅にはこのシステムを採用しています。

奥様の話 まず1軒、見学したら、「本気モード」にスイッチが入って、もつといろいろ見て勉強しようとハウジング

パーク(青森市浜田)の展示場にも行きましたし、他社の見学会にも足を運びました。結論から言いますと、展示場は綺麗に飾っている箱を眺めているみたいで、「生活感」が伝わってきませんでした。そこで主人とわたしの一致した意見は、「最初に見た稲見さんのところが良かった」だったんです。

外壁にも室内にも「木」を使った柔らかさと、さつきお話しした設備業者の人が熱心に説明してくれた自然な暖かさの暖房がぴったり合っていて、「快適そう」な印象が強く残っていたんです。

天井に碍子引き配線を「新しい古さ」のセンス

ご主人の話 そんなときにまた「手を差し伸べる」ようにタイミングよく届いたのが、稲見さんからの見学会(浪岡)案内の葉書だったんです。「縁を感じましたね。今度は会場で稲見さんとじっくりお話しすることができました。その場で、建築を依頼しました。

——工藤様邸の住宅性能を数値で表すと。

稲見氏の話 断熱性能のUA値(注①外皮平均熱貫流率)は0.28w/mKで、求められる青森県の基準の2.5倍もあります。またC値(注②気密性能)は0.25で、基準値より8



リビングの色調とバランスをとって明るく仕上げられた小上がり

倍も高いです。
——「トリプル断熱」「W遮熱」へと「進化」させた特殊塗料とは。

稲見氏の話 断熱性が高い特殊セラミックを塗料化したもので、これを外壁材に塗るので、大事なポイントは「外気に接する床」、つまりは「軒天材」にも塗るところなんです。軒天からの熱ロスは案外多いので、念を入れて採用することにしました。それによって従来のW断熱が3層のトリプル断熱



マリンプルーの海を想わせる奥様の仕事部屋の壁面



天井の白い陶器製の罫子を使った電気配線が“新しい古さ”を感じさせる

に、また遮熱もW遮熱レベルアップしたというわけです。(太陽光発電のモニターを見て)11月に入った今日の時点でさえ、工藤様邸のエネルギー自給率は150%もあります。50%の電気を東北電力に売っているということですね。断熱・気密・遮熱の賜物ですよ。

奥様の話 住んでまだ1か月ですけど、断熱性の高さは実感しています。玄関土間と二つの空間になっているリビングとキッチン、小上がりも、またリビングから階段でつながった2階の寝室も、子供部屋も、妻の仕事部屋も、廊下も、どこもみな同じ温度です。“快適”ってこういうことなんですね。

奥様の話 初めて見学した青森市野内の家は白色が基調でしたけど、わが家は“渋め”にしてももらいました。リビングの床板が茶色、冷暖房のパネルが黒色、キッチンの腰壁も黒色のタイルで、それとバランスを取るように稲見さんが小上がりを明るく仕上げてくださいました。お気に入りには(リビングの現わしの梁を指差して)、昔の家みたいに天井に電線が見えているところ(白い陶器製の罫子を使った電気配線)。“新しい古さ”って言うんでしょうか、雰囲気あつて落ち着くんですよ。これも稲見さんの磨かれたセンスですね。

注①UA値：住宅の内部から外部へ逃げる熱量を、外皮表面積の合計で割った値。外皮とは外気に接する屋根、壁、天井や窓などの開口部を指す。数値が小さいほど断熱性能が高い。

注②C値：床面積1㎡当たりのすき間面積のことで、住宅の気密性能を表わす。北海道や青森県ではC値が2以下となる住宅を「気密住宅」と規定。C値が2とは、分かりやすくいえば100㎡の建物だと家全体で200㎡(14cm×14cm程度)のすき間があるということ。

Architecture Design Office **INAMI**

株式会社 稲見建築設計事務所
 青森市佃1-5-7
 TEL.017-742-2636 FAX.017-742-2637
 http://www.a173.org
 E-mail : staff@a173.org

合浦公園
 阿部歯科医院
 GS
 至古川
 明の星高校
 青森市佃
 明の星高校通り
 藤田組通り
 au
 タイヤ館
 株稲見建築設計事務所

有限会社 岩木建設



2017年度第10回あおもり産木造住宅コンテスト
特別賞受賞

ユ一ザ一訪問

古館 専一 様邸

DATA

十和田市伝法寺 2017年3月竣工
■延べ床面積／平屋建て47.28坪(156.3㎡)
下屋14坪

■使用青森県産材／ヒバ(土台、トイレ壁、洗面所壁)、スギ(柱、梁、建具、下駄箱、下屋梁、下屋格子)、キハダ(床柱)、エンジュ(床柱、寝室クローゼット柱)、ケヤキ(9寸角柱、床の間違い棚)、クリ(下屋柱、敷居、上がり框)。

敷地面積が約1万2000坪(約4反)。鬱蒼たるスギの大樹に囲まれて建つ、古館専一様邸。大きな平屋の瓦屋根で、先祖代々受け継がれてきた歴史が偲ばれる口ケーシヨンの広い土地に、和風の外観がじっくり溶け合っている。建物の間口は8間(14・56m)。玄関正面から離れて見渡すと、母屋と下屋とが平行して描き出す2重の線が、左端の和室から右端の居間へかけて、水平に流れている。母屋の屋根勾配をそのまま手前に延長させるのではなく、一段下げて取り付けた下屋。その重なる屋根が外観に重厚な趣きを添え、屋根瓦の「和風」をいっそう美しく強調している。

木と大工の技を支える
がっしりした和風の家

——医学部の教授をされていたとお聞きしましたか。

古館様の話 神奈川県にある北里大学医学部の教授をしていました。ここ十和田の北里大学大学院を卒業して、向こう(神奈川県)に就職したというわけです。こっちに帰ってきたのが5年前で、その1年後に、岩木建設の展示場を見学に行きました。実は僕の母親と、節子さん(岩木専務)の母親が姉妹なんですよ。それで、建てるのは岩木建設と決めてはいたけど、まずはいろいろ見てみようと思っただけね。岩木建設で建てた八戸や七戸のお宅も見させてもらいました。

——どのようなイメージの家を建てようと思っていましたか。

古館様の話 漠然とではあるけど、まず和風であること。昔ながらの古い和風の家ですね。



外観に重厚な趣きを添えている2段構えの屋根

学会で全国あちこち歩いたときに、残っている古い家はどれもみんな和風の家でした。流行を追った洒落た建物は飽きがはやくきて廃れるけど、和風の古い家は、反対に年月が経つほど風格が出てくる。柱や梁などの太い木が、大工の技でがっしりと家の躯体を支えているんだね。わが家の上棟式のとときに、ほればれと眺めたのは、9

寸角のケヤキの柱です。手のひらに余る27cmもの太さで、それが7本も立っていた。岩木さん（岩木勝志社長）に聞いて知ったんだけど、初めから9寸ではなく、1尺のものを削って9寸に仕上げたものだったか。僕には7本の太黒柱に見えましたね。壮観でしたよ。これだと100年は優に持つなって思ったもんです。

——『いわ木の家』の頑丈な造

りがまさにイメージにぴったりだったのですね。

古館様の話（うなずきながら）特に気に入ったのは「下屋」

ですね。下屋のある家は「和風」が強調される。実に和風っぽい。それと、下屋を支える太い柱（6寸角のクリ）が見るからに頑丈で安心感を与える。直射日光が射し込まないから涼しいことは、住んでみて実感していますよ。冬は逆に陽射しが入



どっしりとした存在感を放つ9寸角のケヤキの柱。柱の上部は天窓になっている





建て替える前の家から再利用された欄間。新しい和室に“思い出”が溶け込む

るからきつと暖かいでしょう。軒が深いから建物の外壁が雨や雪で傷まないという機能もありますしね。必要なものがきちんと備わっていないければ、家も、人の体も、そこから壊れていくものです。

——医学と住宅と、共通点があるものですか。

古館様の話 人の体も住宅も、“しくみ”がしっかりしていないところから破損する、という点では同じです。しくみが破損すると、体は病気になる。家も、しくみがしっかりしていないところから壊れ出す。だから僕は、岩木さんに、ここを削ってくれ、とは言わなかった。設備で不要なものは取ってもらったけど、あとはなかったですね。

古い柱を床の間に利用 歴史引き継ぐ自然の木

岩木社長の話 古館様邸の下屋は、軒の深さも長さも格別です。大きな平屋ですから、そのぶん下屋も大きくしないとバ

ランスが取れないのです。下屋の柱までの出幅が1間(1・82m)で、そこからさらに軒先まで3尺(91cm)あるから、全体で1間半(2・73m)です。それが南東にL字型に合計12間、22m近くも連なっていて、部屋に換算すれば28畳(14坪)ほどの広さになります。それくらい大きくして全体的に釣り合いました。

——間取りは以前の家とほぼ同じだそうですね。

古館様の話 同じ土地に建てるのですから基本的にはそうなりますよね。この居間の場所も、以前も居間でしたし、前はここにもう一部屋続いていたんだけど、必要ないからそれはなくして、廊下も1間幅だったのを4尺5寸にしたりして全体的に縮小したんです。

——最初はリフォームの計画もあったようですが。

古館様の話 家そのものは築50年近くで古かったけど、5年前にトイレと浴室を直したば



本棚と押入れの間に床柱風にエンジュを立てた寝室

かりなので、そこを生かして、傷みの目立つ部屋とか屋根、外壁などをリフォームしようかと思っただんです。昔はこの家に曾祖父曾祖母、祖父祖母、僕の父母と3夫婦が暮らしていて、1階が70坪、2階が20坪で90坪もありました。大きな家となると屋根も外壁の面積も大きくて、岩木さんにリフォームの見積もりをしてもらったら、新築並みの金額になりました。それもあつて建て替えようと決心があ



和の佇まいが落ち着いた雰囲気を出す廊下スペース

いたんです。

岩木社長の話 ご先祖の遺影

が見守る古い家でしたから、思い出の染みだ欄間は、2間続きの新しい和室に再利用することになりました。青森ヒバの木組細工と、枝振りが見事な松の欄間です。それと、ケヤキの柱も床の間の床縁や落とし掛けとして使いました。再生できるところが無垢材の良さで、表面が古くなってもカンナさえかければ新品に生まれ変わります。家に刻まれた歴史を引き継いでくれる最良の建築材が、自然の木ですね。



古い柱を再利用して和室の床柱にした

いわ木の家

有限会社 岩木建設

十和田市大字洞内字井戸頭175-1
TEL.0176-27-2906 FAX.0176-27-3259
E-mail:iwaki@sea.plala.or.jp



国道4号線沿いに立つ長期優良住宅展示場「いわ木の家」案内板

有限会社 岩木建設

ユーザー 特集

いわ木の『下屋のある家』

「下屋」と書いて「げや」と読みます。

パソコンで「下屋」を検索してみると——『おもや母家から差し出して作られた屋根。また、その下の空間。さしかけ屋根』とありました。「写真」(下)の「ここ」の部分です。総2階建ての、張り出した屋根の下の空間も「下屋」と呼びます。

この「下屋」は、今では『いわ木の家』のシンボルともいえる存在です。岩木建設で建てる家のほとんどに付いています。常設展示場にも、新築現場にも付いているので、見学したお客様のほうから、「じゃ、うちにも」と

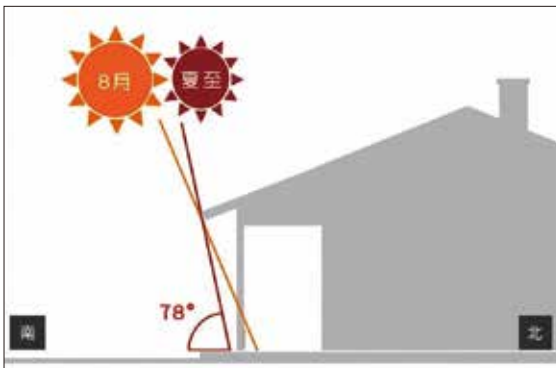
要望されます。

「下屋」になぜこだわるのか。岩木勝志社長がこう話します。「雪国の生活に下屋ほど適したものはありません。夏は太陽の位置が高いので日除けになるし、冬は低く陽が射し込むから暖かい。省エネ効果だけじゃなく、軒が雨や雪から外壁を守ってくれるので家が長持ちします。家にとっては良いことづくめで、青森県の気候風土に最適な造りなんですよ」

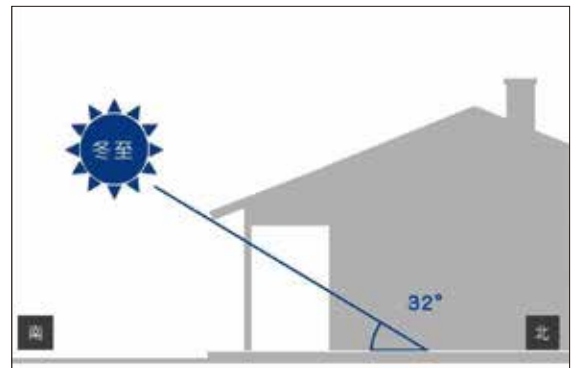
雪国の暮らしに快適さを添える『いわ木の「下屋のある家」』を特集しました。

雪国住宅に最適 夏涼しく冬暖かい





夏の陽射しの角度は高く下屋に遮られて室内は涼しい



冬の陽射しの角度は低く室内に届くから暖かい





「これはお薦めですよ」



■中村様邸(七戸町榎林)
2010年7月竣工
延べ床面積/43.46坪(143.66㎡)

奥様の話 完成した自分の家に住んでみて、とつても重宝しているのは、玄関前にかけての屋根です。「下屋」と言うのだそうです。初めは玄関ポーチの部分だけに屋根がかかる予定だったんですが、こうしたほうが使い



■長期優良住宅モデルハウス「いわ木の家」
2010年3月竣工
延べ床面積/60.00坪(198.74㎡)

宿泊体験できる展示場

勝手があるから、と岩木社長が屋根の部分を広げてくれたんです。
幅が1間(約1・8m)もあって、その下がタタキですから、テーブルを置けば、昔の縁側みたいに、隣近所の人たちが寄り集まって茶飲み話もできます。

息子とバドミントンをしていて、にわか雨がくれば駆け込めますし、自転車もバイクも置けます。「下屋」つてこんなに使いみちがあるんだなって住んでみて実感しています。冬になれば雪カキ道具も立てかけておけますしね。これはお薦めですよ。

当社の常設展示場を見学して、「下屋」への関心を抱くお客様



展示場では、「木の家」の住み心地を1泊して体験できるよう「宿泊体験」も行っています。(家づくりを計画している人に限定)。
0176-27-2906

様が圧倒的に多いようです。特に冬場、屋根が手前に張り出しているので玄関先に雪がなく、「これはいい」と。下から見上げる屋根裏に板が張つてある和風の趣きも好評です。
リビングの床板はカラマツ。独立して立っている大黒柱はクリ。8寸(約24cm)角の通し柱はスギ。そのほかにヒバやカバザクラなど12種類もの木材を使用しており、全部、青森県産材です。

陽射しを遮ってくれる



■天間様邸(七戸町字森ノ下)
2011年9月竣工
延べ床面積/38.00坪(125.87㎡)

「ご主人の話」 展示場を拝見したときに気に入ったのが、玄関前の「下屋」でした。わが家では庭のある南側に付けていただきました。

軒の出幅が1間(約1・8m)もあるので、陽射しを遮ってくれるし、外壁に直接雨が当たらないので傷まない、と岩木社長が話していたとおりに実際重宝なものです。

「いいなあ、いいなあ」



■畑中様邸(むつ市横迎町)
2012年5月竣工
延べ床面積/40.00坪(132.49㎡)
(第5回あおり産木造住宅コンテスト最優秀賞受賞)

「ご主人の話」 テレビで知った「あおり産木造住宅コンテスト」について県林政課に問い合わせたら、送られてきた資料の袋の中に「青森県産材使用長寿命住宅モデル事例集」が同封されてあったんです。開いてみて、目に留まったのが、岩木建設の展示場でした。場所は、十和田市。

私、高校の教員をしていました、日曜も部活の指導があるからなかなか時間が取れなかつ

たのですが、その日曜はいつもより部活が早く終わったので、それじゃこれから展示場を見に行こうと妻に電話をしました。妻が、岩木建設に連絡を入れると、岩木社長の携帯につながって、私たちはむつから、岩木社長は出先から展示場へ向かうことになったんです。

パンフレットを見ただけでもビビツときたほどですから、目の当たりにした現物の展示場の木の空間には圧倒される思いで、私も妻も、出てくる言葉は、「いいなあ、いいなあ」だけでしたね。これぞ求めている木の家でした。体験宿泊できると知って、すぐその場で申し込みました。

岩木社長の話

展示場ばかりでなく、当社で建てたお客様の家へも何軒かご案内させていただきました。その中で、畑中様ご

夫婦がそろって気に入ったのが、2011年に七戸町に建てたT様のお宅でした。黒い外壁。直射日光を遮る1軒(約1・8m)幅の下屋。床も内壁も板張りのリビング、ダイニング。キッチンから正面に見える太い梁。それと薪ストーブ——どれも気に入ってくださいました。

畑中様のお宅も、外壁は黒色です。建物の正面に下屋を設け、キッチンからアオダモの太い梁が見えます。このようにして、現場から次のお客様の現場へとつながっていくことは、建てる側としてもうれしいことですね。



落雪で窓が埋もれない



■中村様邸(十和田市奥瀬)
2013年4月竣工
延べ床面積/55.23坪(182.94㎡)

ご主人の話 いよいよ建て替

えることになって、家内と岩木建設の展示場を見学に行ってみました。目に留まったのが、玄関前に張り出している「下屋」でした。夏には直射日光を遮ってくれるから室内が涼しく、冬は屋根が出ているから落雪で窓が埋もれない、と岩木社長が利点を説明してくれました。昔の家には「下屋」が付いてあったものですけど、ちゃんとそういう理由があつたのですね。

今年(2013年)春に完成したわが家の「下屋」は、軒の出

幅が1間(約1・8m)もあります。角の母親の部屋から、真ん中のリビング、その隣の和室へと連なっている様は、黒石の「コミセン」に似ていますよ。

岩木社長が話していた通りに、陽射しが「下屋」に遮られて部屋の中まで射し込まないから、涼しいですね。ウッドデッキでたまに仲間が集まって焼き肉をするんですが、雨が落ちてきても屋根があるから慌てることはありません。

新しい中にも懐かしさ

ご主人の話 岩木建設の展示場を見学に行ったのは真冬の2月で、玄関前に雪がのつた屋根(下屋)が張り出していました。その様子がいかにも日本家屋といった雰囲気でしたね。

屋根の下には分厚い板のウッドデッキがあつて、新しい中にも昔の縁側のような懐かしさ



太さ10cmもある竹竿

が感じられました。ひと目で気に入りました。



■山本様邸(むつ市大畑町)
2014年4月竣工
延べ床面積/40.00坪(132.49㎡)

奥様の話 下屋の物干し竿が、本物の竹なんです。ステンレスパイプの竿だと似合わないし、岩木社長が10cmもある太い竹を竹林から切ってきてくれたんです。太い柱と柱の間に架けたその竹竿が「下屋」にとっても合っていて、わたしのお気に入りですよ。

ご主人の話 買い物に出かけ



■T様邸(八戸市)
2013年6月竣工
延べ床面積/53.5坪(177.21㎡)
(第6回あおもり産木造住宅コンテスト優秀賞受賞)

たときに、ちょうどむつ市内の畑中さんの家(『青森県産材でエコな家づくり』No.Vに掲載)のそばを通りかかりました。

畑中さんのお宅は以前、構造見学会のときに拝見していて、現場でお施主さんと面識がありましたので、少々ためらいはありましたが、インターフォンを押してみました。



出迎えてくださった奥様に、「見せていただけませんかでしょうか」とお願いしましたら、どうぞどうぞと、気さくに迎え入れてくれました。夏の暑い日でしたが、家の中はスツと涼しかったのが印象に残っています。

屋根下でバーベキュー



■坪様邸(十和田市一本木沢)
2014年7月竣工
延べ床面積/平屋建て27.00坪(89.43㎡)

「下屋」の出幅は外壁から3.5m。約2間もあり、車が2台も置けるスペース。林業に携わる坪様は、山で伐採した原木を丸太に玉切りし、自宅に運んで、斧で割った薪を下屋の下に積んでおきます。下屋は格好の薪置場でもあるのです。

坪様の話 雨を気にせずに洗濯物が干せるし、バーベキューも出来るし、重宝ですよ。

決め手は木のぬくもり



■見上様邸(七戸町)
2016年3月竣工
延べ床面積/42.26坪(140.00㎡)
(第9回あおもり産木造住宅コンテスト最優秀賞受賞)

見上様邸の前に停まった2台の車から、「あおもり産木造住宅コンテスト(第9回)の審査委員たちが降りました。候補の現地審査に訪れたのです。

軒が張り出した「下屋」に薪が積み重ねられているのを見て、「なるほ

ど、薪置場にもなるんだ」と審査委員のひとりが感心したようにつぶやきました。

奥様の話 岩木建設の展示場のリビングに入った瞬間、ああ、いい家だなあ、って思いました。床に板が張ってあって、吹き抜



■中村様邸(十和田市赤沼)
2016年9月竣工
延べ床面積/38.76坪(128.14㎡)

8mのクリを継いだ桁

けがあつて、梁がすつごく太くて頑丈そう。薪ストーブもあつて、隣の洋室にも水回りにもヒバの香りがしていて、「建てるならこういう家」って一目惚れしましたね。

岩木建設の他にも展示場は

数軒見ました。他社はキッチンや洗面などの設備がモダンで、室内の造りにしてもデザインが良かったけど、岩木建設の展示場にあつた、「温かみ」がなかったんです。決め手は「木のぬくもり」でした。

東南の角に玄関。その上にかかる「下屋」の幅は、クリの柱まで1間(約1・8m)あります。そこから軒先までさらに3尺(約91cm)出ているから、全体では1間半(約2・73m)。その幅で、奥の主寝室の前まで8間(約14・5m)も通しになっています。

柱の上の桁は8寸角のクリ。8mものを2本、追掛大柱継いでいます。タタキを打った「下屋」下の面積は約8坪。16帖分もある広さで、しかも軒が深いから、不意の雨を気にせず洗濯物が干せます。自転車なども置けるし、冬は建物から離れた位置に雪が落ちるので雪かきも要りません。

展示場見て付けた下屋



■種市様邸(八戸市白銀)
2016年12月竣工
延べ床面積/44.30坪(146.43㎡)

外観の和風強調される



■古館専一様邸(十和田市伝法寺)
2017年3月竣工
延べ床面積/平屋建て47.28坪(156.3㎡)

ご主人の話 岩木建設の展示

場から「良い所」をいっぱい頂きました。リビングの薪ストーブも、背後の壁に貼っている遠赤外線が出るという十和田石も、ストープの上の吹き抜けも、太い(8寸角)の大黒柱も、それから2階のホールの上のトップライトも、薪をどっさり積んで乾燥させておける「下屋」もです。

私も妻も特に気に入ったが和室で、「展示場と同じにしてください」って社長さんに頼みました。

軒の深さも長さも格別です。

下屋の柱までの出幅が1間(約1・82m)、さらに軒先まで3尺(約91cm)、全体で1間半(約2・73m)も、それが南東にL字型に合計12間、22m近くも連なっていて、部屋に換算すれば28畳(14坪)の広さになります。それくらい大きくして母屋との釣り合いが取れました。

古館様の話 流行を追った洒落た建物は飽きがはやくきて廃れるけど、和風の古い家は、反対に年月が経つほど風格が出てくる。柱や梁などの太い木

が、大工の技でがっしりと家の
躯体を支えているんだね。

わが家の上棟式のときに、ほ
ればれと眺めたのは、9寸角の
ケヤキの柱です。手のひらに余
る27cmもの太さで、それが7本
も立っていた。岩木さん（岩木
社長）に聞いて知ったんだけど、
初めから9寸ではなく、1尺の
ものを削って9寸に仕上げたも
のとか。僕には7本の大黒柱
に見えましたね。壮観でした
よ。これだと100年は優に持
つなうって思っただけです。

特に気に入ったのは「下屋」で
すね。下屋のある家は「和風」が
強調される。実に和風っぽい。そ
れと、下屋を支える太い柱（6
寸角のクリ）が見るからに頑丈
で安心感を与える。直射日光が

射し込まないから涼しいこと
は、住んでみて実感しています
よ。冬は逆に陽射しが入るから
きつと暖かいでしょう。軒が深
いから建物の外壁が雨や雪で
傷まないという機能もありま
すしね。

プールを置いて水遊び



■ F 様邸（八戸市）
2016年10月竣工
延べ床面積 / 47.00坪（155・68㎡）

奥様の話

空気を入れて膨ら
ませるビニールのプールがある
でしょ。夏にあれを「下屋」の
下に置いて子供たちに水遊びを
させるんです。直射日光が当た
らないからとつてもいいん
ですよ。



ご主人の話

もう5、6回も
バーベキューをやりましたよ。
家族で朝食をとったりね。「下
屋」も気に入っていますが、薪ス
トープもいいですよ。ストーブ
の中で手羽先を焼いたりね。薪
から炎が上がつている状態では
まだまだで、燠おきになってからで
ないと、こんがり焼けないんです。

『いわ木の家』だより 発行



ご希望者には郵送致します

いわ木の家

有限会社 岩木建設

十和田市大字洞内字井戸頭175-1
TEL.0176-27-2906 FAX.0176-27-3259
E-mail:iwaki@sea.plala.or.jp



有限会社 岩木建設



最後に見た木の家に縁

『いわ木の家』展示場

急勾配の屋根が合掌造りを想わせるF様邸。周囲の緑に囲まれた山里のようなロケーションに映える黒色の外観が、山荘のような。玄関前に張り出した「下屋」の下に薪が積まれている。玄関に入ると、リビングに薪ストーブが鎮座する。木の空間が視界一杯に広がった。対面式のキッチン、ダイニングとワンフロアでつながる広々とした板敷のリビング。空間に開放感を与えているのが薪ストーブの上部をダイナミックにくり抜いた吹き抜けだ。勾配屋根に登り梁を現わした2階の、吹き抜けに架かる「天空の橋」のような渡り廊下を、お嬢ちゃんたちが元気に駆け回る、駆け回る。

ユ一ザ一訪問

F様邸

DATA

八戸市 2016年10月竣工

■延べ床面積/47坪(155.68㎡)

■使用青森県産材/ヒバ(土台、洗面室・トイレ内壁)、スギ(床、柱、大黒柱、梁、天井、下駄箱、建具、格子)、ケヤキ(上がり框)、クリ(下屋柱)。

——いつ頃から家を建てよう
と計画されましたか。

ご主人の話 計画というより、ローンを完済するまでの年数を逆算して、建てるのは「今」だと判断したんです。それが3年ほど前のことですね。

奥様の話 その頃に住んでいたアパートのすぐ近くで、2軒同時に新築工事が始まったんです。別々の会社でしたが、工事が進んでいく様子を窓越しに目にしているうちに、だんだん形になっていく家づくりの



2階の吹き抜けに架かる渡り廊下を嬉しそうに追いかけてっころすお嬢ちゃんたち

面白みを覚えるようになったんです。2軒のうち1軒で構造見学会が開かれると知って、見に行きました。そうしたら、今度はそのハウスメーカーがユ一ザ一のお宅を回るバス見学ツアーを開くというので、参加しました。それを皮切りに、八戸市内のハウジングパークにも行きましたし、結構あちこち見学して歩きましたよ。

ご主人の話 「木の家」に出会ったのは、2年前でした。私の職場の同僚の奥さんの実家



ご主人が惹かれていた柔らかな色合いの木の空間



上下3段に分かれて扉が付いたシューズクローク。4人家族だから4列ある。“ちゃんと片づけましょ”が合い言葉

が工務店で、その工務店が建てた家を拝見させてもらったんです。それが「木の家」でした。それまで、ハウスメーカーとか地元の住宅会社とか工務店とか、展示場や見学会などいろんな住宅を見学しましたが、「木」を見せた造りの家はそれが初めてでした。柔らかな色合

いの木の空間に惹かれましたね。そのとき、思ったんです、家って“物件”ではなく、生活する“空間”だよな、って。あるハウスメーカーの営業マンは、いい土地があると情報を仕入れてはそこへ案内してくれて、それには感謝でしたけど、こんな所



薪ストーブの上部をダイナミックにくり抜いた吹き抜けのあるリビング

に一生住まなければならぬのか、と暗澹たる気持ちになるような場所だったりしてね。それに、土地を決めたわけでもないのに、この土地にはこういう間取りが合うなどと先走るから、なんだか“売り付けられている”ような気がして、止めました。

奥様の話 そんなときに、主人がまた“出会った”ものがあるんですよ。図書館で目に付いたという「本」(『青森県産材でエコな家づくり』)なんです。その「本」には、「木の家」がいっぱい紹介されていて、それからは「木の家」に的を絞って見学して回りました。

—— **岩木建設との出会いも「本」ですか。**

奥様の話 そうです。もうかなりいろいろ見学したので、最終候補に絞り込んでいたある工務店に決めようって主人に言ったら、最後にあと1軒だけ、岩木建設の展示場を見てから決めよう、ということになったん



バーベキューや子どもたちの水浴びの場として重宝されている「下屋」

です。見に行つて、そこに“縁が待つていたんです”。

薪ストーブで手羽先を生活しながら旅の気分

ご主人の話 (取り出してきた『青森県産材でエコな家づくり』Ⅳを開いて)このページです。階段が写っているリビングの写真もそうですが、顔を寄せ合つてVサインを出している小学生たちのあつたかい雰圍気に惹かれましたね。笑顔が、木の空間にびつたりでした。展示場を見学して、それでもし気に合わなければ、妻が最終候補にしている工務店に決めることにしよう。そう思つて出かけたんです。外壁も、玄関前に張り出している「下屋」も、廊下も、広いリビングの床も、「本」に見た階段も、柱も、太い梁も、みんな「木」でした。こんなふうに「木」に囲まれると、子供たちは自然と笑顔になるんだなって実感したものです。

奥様の話 展示場に宿泊体験

できると知って申し込みました。いちばん喜んだのはそのときまだ2歳だった上の子です。全身で喜びを表わすみたいにはしゃいでいましたよ。階段を上がって行って、声をあげなが



居ながらにして山小屋の雰囲気を堪能できる天井の天窗



洗面台にまで分厚い一枚ものを使ったヒバ尽くしの洗面所

ご主人の話 もう5、6回もバーベキューをやりましたよ。家族で朝食をとったりね。「下屋」も気に入っていますよ。薪ストーブもいいですよ。ストーブの中で手羽先を焼いたりね。薪

から炎が上がっている状態ではまだだめで、燠わかになってからでないよ、こんがり焼けないんですよ(実際にご主人が手羽先を焼いてみせてくれた)。

奥様の話 以前は、温泉が好きなことから結構旅行に行っていたんですけど、家が建つてからは、わが家より素敵な宿はないだろうって、旅行には行かなくなりましたね。階段の下から高い天井の天窗を振り上げれば山小屋にでもきているみたいだし、生活しながら旅の気分を味わえるのですから、気持ちが豊かになりますよ。

ら走り回って、下に降りてきてリビングを走り回って、もう体育館でしたよ。まだ6か月ぐらいたった下の子も、床に寝かせたらきゅっきゅ笑って手足を動かしてね。この展示場に出会ってほんとうに良かった。最後に「福」を引き当てた気分でしたね。子供たちがこんなに喜ぶんだもの、一も二もなく岩木建設に決めました。

—— 外壁から1間半(約2.7m)も出ている「下屋」は重宝ですか。

奥様の話 空気を入れて膨らませるビニールのプールがあるでしょ。夏にはあれを「下屋」の下に置いて子供たちに水遊びをさせるんです。直射日光が当たらないからとってもいいんですよ。



ストーブの中で手羽先を焼いてキャンプ気分を味わうというご主人

いわ木の家

有限会社 岩木建設

十和田市大字洞内字井戸頭175-1
TEL.0176-27-2906 FAX.0176-27-3259
E-mail:iwaki@sea.plala.or.jp



長期優良住宅展示場「いわ木の家」リニューアルオープン(2017年12月)